



医療連携室 TEL &amp; FAX 03-3364-0366

## 外科



外科部長 柴崎 正幸

当科は 6 名の医師＋研修医 1 名で、上部消化管疾患、肝胆膵疾患、乳腺甲状腺疾患、急性腹症等の診療を行っています。平成 16 年の診療実績は胃癌手術 57 例、腹腔鏡下胆嚢摘出術 61 例、肝胆膵悪性疾患手術 29 例、乳癌手術 36 例、単径ヘルニア手術 97 例で、総手術例数は 443 例でした。この中から主要な疾患につき当科での診療内容をご紹介します。

## 1. 胃癌

胃癌は EMR(内視鏡的粘膜切除)が適応となる粘膜に局限した早期癌から切除不能な高度進行癌までさまざまな進行度の患者様が紹介されてまいります。これらに対してガイドラインに沿った標準的治療を行いつつ、tailor-made な対応も必要とされます。当科では患者様の病変の進行度により腹腔鏡下胃局所切除、幽門保存自律神経温存胃切除などの縮小手術から拡大リンパ節廓清、他臓器合併胃全摘などの拡大切除まで患者様に至適な術式を行うよう常に心がけております。

## 2. 内視鏡下外科手術

腹腔鏡下胆嚢摘出術はその低侵襲性から胆嚢結石症の標準術式になっております。しかし急性胆嚢炎や高度な慢性胆嚢炎合併例では胆嚢管や胆嚢動脈の同定が困難な症例もあり、総胆管離断や肝動脈損傷などの重篤な合併症の報告も見受けられます。当科では安全な腹腔鏡下手術を最優先に考え、本手術に取り組んでおりまた豊富な手術経験をもとに総胆管結石症、副腎摘出、脾摘、胃食道逆流症、食道アカラシアの手術にも本手術を応用しております。

## 3. 肝胆膵悪性疾患

肝切除術、膵頭十二指腸切除術は難度の高い手術です。本手術は術前、術中の正確な進行度診断、外科局所解剖の熟知、正確な手術手技、綿密な術後管理が要求されます。当科のスタッフの内 4 名は肝胆膵外科出身で以前よりこれらの手術に精通しており、地域の先生方には安心してご紹介していただけるものと考えております。

## 4. 乳癌

乳癌の治療は予後因子についての詳しい研究や分子標的薬などの新規抗がん剤の開発により最近数年間で劇的に変化しています。これらの成果を踏まえ当院でも治療ストラテジーを常に up date し、患者様に最善の治療を提供するように努めています。また乳癌は病期、組織所見、ホルモンレセプターの有無、HER2 過剰発現の有無等により治療の選択肢が複数存在し、これらのなかから患者様自身が自分の治療を選ぶ時代になっています。このため正確で、分かりやすい情報の提示が必須であり、きめ細かなインフォームドコンセントが重要になっております。当院ではこれらを乳腺外科医が担当し、患者様の満足度を高める努力を行っています。

外科治療は手術という侵襲を伴う治療であることを忘れることなく、患者様の全身状態も考慮し、今後も安全で合理的な過不足のない手術を常に心がけてゆきたいと考えております。また外科の患者様の多くが悪性疾患であることを心にとめ、疾患特性に配慮した温かな気配りも忘れてはならないと思います。

これからも宜しく願いいたします。

